

P	種類・項目	内容・備考
10	本書の主題	コミュニケーションの自由性を阻害する現象について語っている
10	面接	それ自体あらゆるコミュニケーション過程のミニチュア。面接にはあらゆる人間関係の本質的な性質と、いかなる社会場面においても人間がなんとかやってゆく上で重要なデータが多くある
10	本書の意図	行為のための概要手引書ではなく、面接する人なら誰でもその思考を刺激する挑発的な一連のアイデアを示すところにある →問題に対する処方箋、つまり「解答」を与えるものでない！
3	面接とは	二人の人が会う際に、一人が対人関係の専門家で、もう一人が依頼人、被面接者、患者といわれる人である場合。依頼人たちは、自分の困っていることを専門家と真剣に話し合うことから何らかの利益を得ようという期待がある。
3	「精神医学的」	本書での意味は、面接を一つの対人的現象と考え、「科学する」（リー）
4	専門職の仕事	仕事や専門職の重要な部分には対人関係があって、対人関係の達人であることが仕事の成否に大きく関わるのではないか→「アート」
4	面接のアート	対人関係の個別的な特性は観察と記載になじまない→直観的、主観的、個人的、だから「アート」。対人関係の相互作用における諸過程が観察可能でなく、なぜかははっきり分からぬが、面接の場はプライバシーの雰囲気の中で最もよく花が咲く。
5	操作主義的アプローチ	サリヴァンの講義は、その大半を集団討議にあてられた。突っ込んだ質問のやりとり、問題の定式化、人間行動研究のいろいろな接近法の提案など。のちには、学生に症例を出させ、討論を奨励し、この集団の相互作用の中で精神医学の仕事がまさに対人関係にあることを照明した。
5	面接の不成功	互いに相手に不安を抱いたままだと面接の諸過程は曖昧模糊であり続ける
5	離断力	不安から相手を離れる、関係を断とうとする働き
8	対人接触の不安	その過度の経験が、精神障害を認められる人たち及び外面を規格どおりに繕って生の困難を隠している多くの人たちの生き立ちにはある
13	面接者の中立性	面接者が治療の場の「中立的」人物であるような場はない。面接者は関与者であることを避けられない。面接の場は社会的行動の場であるから面接者の存在によって変化する。
14	面接の場面	本書でそれとなく示唆されてはいるが明確な定義にはならない多くのことがある
15	成功する面接	その重要な要素=面接の中で相手を表裏なく真剣に尊重する態度でいることを証明してみせる。相手に対して正直で飾らない敬意を証明すると「お返し」がある→面接者への敬意+被面接者の「自己尊重感」が増す。実に感動的！

P	種類・項目	内容・備考
20	私（サリバン）の意図	ある人とある人が出会って真剣に議論する場面を想定し、そこで望ましい最終目標に到達する確率が最大となる経路（コース）を考えて、その際に踏むべき段階を明確な文言をもって定式化したいということである。
20	本書の適用範囲	一般面接にも適用可能。話しの中心を医学の領域に限るというつもりは全然ない。十中八九は、たとえばソーシャルワークや人事管理にも同じように適用可
22	言語的でなく、音声的	精神医学的面接とはすぐれて音声的（ヴォーカル）なコミュニケーションの場である。言語的（ヴァーバル）ではないことを強調
22	秘密を明かすもの	イントネーション、話す速さ、ある言葉にくくるとつかえることなど、話し手の意図を裏切って、こころの秘密を明かすという面がある
24	耳経由	人間が心底からほんとうに言いたいことの手がかりは耳経由で届くもの
25	聴覚をみがく	被面接者を「観察」するのではなく、聴覚を研ぎ澄まして、たいていの人が目でみないと分かるはずはないと思っていることを耳で分かるようにする
37	効果的な面接	依頼者が、「面接には自分のためになるものがある」という事実に開眼していた場合に限られる